

創る感動

参加する感動

観る感動を共有

第13回

明野薪能



明野薪能実行委員会（古田部 光文委員長）主催による「第13回・明野薪能」が、4月8日、明野公民館イル・ブリランテで開催されました。あいにくの荒天により、満開の桜のもとでの舞台は実現しませんでした。ホールの外に焚かれたかがり火が幻想的な世界を創りだし、観客を幽玄の世界へと誘いました。

はじめに、地元の子どもたち9人による、小舞「柳の下」と「呪」、狂言「附子」が演じられました。小舞では、紋付袴姿の凛々しい姿で舞と謡いを披露しました。狂言では、子どもたちのひょうきんな掛け合いが会場の笑いを誘いました。

次に登場したのは、大鼓奏者の大倉正之助さんが長年指導している、神奈川県小田原市の子どもたち12人。伝説「美保の松原」に舞う、天女の美しい姿をそのままに、素囃子「羽衣」が披露されました。日本の伝統文化に守る、筑西市と小田原市の子どもたちに会場から大きな拍手が贈られていました。

続いては、能楽師のみなさんによる能、狂言の舞台へ。まずは、狂言「菘山伏」が9代目・野村万蔵さんによって演じられました。最後は中国を舞台にした、能「天鼓」。豪華な衣装と勇壮な舞で観客を魅了しました。日本の優れた伝統文化に触れ、創る感動・参加する感動・観る感動が会場中にあふれていました。

お花見 国際交流会

満開の桜の下で心と心の交流



地域で暮らす外国人のみなさんと気軽に交流を図ろうと、筑西市国際交流協会（仁平正巳会長）主催の「第13回お花見国際交流会」が、4月9日に明野公民館で開催されました。

満開の桜の花びらが舞う会場には、市内やつくば市など近隣市町村から20か国、約300人の外国人のみなさんが集まり、日本の美しい春を満喫しました。

会場では日本人会員による手打ちそばや焼き鳥など日本の味を紹介。また、ブラジルやタイの自慢料理も紹介されました。ステージでは、地元の大鼓やひよつとこ、ブラジルのサンバやタイの民族舞踊なども披露されました。日本伝統の『お花見』を通して、心と心の交流を図ることができました。

